

# 日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年4月13日(土)

活動隊員:福島芳子

## 1. 活動期間

2024年4月9日(火) 10時 ~ 2024年4月11日(木) 16時

## 2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

日置公民館(石川県珠洲市折戸町チ部34番地)

仮設住宅:正院町第1団地(珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地)

宝立町第1団地(珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83)

## 3. 石川県珠洲市の被害状況(4月9日 14:00 現在 石川県庁情報)

人的被害 死者:103人 うち災害関連死:6人 負傷者:重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:7,982棟 非住家被害:4,402棟

## 4. 避難所の状況(大谷小中学校)

### 【避難者数】

4月9日:19人

### 【避難所運営】

運営体制の変更や避難者数の増減はなく、運営状況は落ち着いている。2次避難者が戻る日時については、現在、決まっていない。在宅避難者への弁当配布も継続されている。

### 【避難所の生活状況】

小中学校の春休みが終了し、体育館の一部は、通常授業で使用されている。上下水道は復旧しておらず、4月中旬~5月下旬に通水予定である。市内の銭湯が臨時休業中であるため、避難所シャワーが利用されていた。

## 5. 仮設住宅の状況

正院町第1団地:団地配置図に氏名掲示の準備が進められている。また、玄関スロープの舗装部分の舗装延長、住居間の砂利道の舗装、駐車場の舗装などの住環境の追加整備が進められている。そのため、工事による騒音や通行制限、設置障害物による転倒リスクの危険箇所がある。ミーティングやお茶会などのイベントなどで、集会所の利用が開始されている。

宝立町第1団地:153戸完成し、145戸(282名)が順次、入居を開始している。コミュニティの維持の観点から、地域の被災者が一体的に仮設住宅団地に入居できるよう配慮されている。住居入口に風除室がある仕様で、鍵のかからない外扉がある。利用する自転車を住居脇の通路に置いている入居者もいる。

## 6. 支援活動の実際

### 【避難所巡回支援】

体調不良者はでていない。体育館で卓球をする子供の姿を嬉しそうにみる高齢者がいた。日中は外出している避難者が多い状況が続いている。掲示板に宝立町有志が主催する「第1回復興！見附桜まつり2024」のチラシが掲示されており、他の地域イベント情報が提供されていた。

### 【仮設住宅支援】

正院町第1団地

1) 初回巡回訪問：7戸の不在者ポスト投函で、健康増進センターに折り返し電話があったのは1戸で訪問不要との連絡であった。

2) 要フォロー者訪問：7名の要フォロー者を訪問した。うち、3名が不在であったが、郵便ポストに配布された印刷物などは溜まっていなかった。下肢浮腫があり、医療機関を受診し、内服薬服用で経過観察中の高齢者は、症状改善がないとの訴えがあり、次週の受診予約日に忘れずに受診するようお伝えした。その他の方々は、症状の悪化などはなく、同居家族による支援もあり、他の専門職チームにフォローを依頼する重篤なケースや困難事例はなかった。

要フォロー者以外でも巡回中にお会いした住民からお話を伺う機会があった。震災時に家の下敷きとなった際のケガが軽快せず、復職したが休職し、将来的な健康面や経済面での不安が生じていた。

3) コミュニティ支援：

・仮設住宅における地域コミュニティ構築のためのミーティング

定期的に継続開催されている。初参加の住民もあり、前回より人数が増加し、様々な立場の地域住民が参加した。コミュニティに関する現在の困りごとの内容分析結果を共有し、解決策について意見交換を実施した。また、行政からは、困りごとに関する状況説明と情報交換があった。

1期と2期に分かれての入居説明会であったため、改めて、入居者全員が一同に会し、仮設住宅での生活などについて説明会が実施されることになった。更に、参加者に現在の困りごとを伺った。

・お茶会開催

集会場で10時～12時までお茶会開催を支援した。チラシを作成し事前に仮設住宅全戸配布し、避難所にも掲示した。仮設住宅・避難所・在宅のそれぞれから参加があり、住民12名が参加した。ささえ愛センタースタッフも参加し、計17名で交流を深めた。震災以降、初めての再会で互いの無事を確認し合い、涙する参加者もいた。震災から現在までの避難生活についての話や今後の生活についての不安などの話題の他、震災以前に公民館で開催されていたお茶会活動の再開を望む声など、話はずんでいた。また、民生委員がリーダーとなり、シルバー健康体操を行った。仮設住宅内から外出する機会が少ない住民もあり、継続的な開催を望む声が多くあった。

・イベント開催

5月26日にイベント開催が予定されており、運営支援などの協力の相談をした。

宝立町第1団地

1) 初回巡回訪問：入居説明会時に希望された日時に、支援に来ている保健師とささえ愛センター職員で巡回訪問を開始している。今後、継続フォロー対象者を円滑に引き継げるよう、日本災害看

護学会派遣者も同行した。高齢者は、お風呂や水道の給湯スイッチの利用方法が難しく、入居後に使用できていなかったため、実際に一緒に使用し、使うことができるよう援助した。また、避難所生活では負担がなかった水道光熱費が自己負担になることでの金銭的負担を心配されていた。

2) コミュニティ支援：宝立町有志が主催する「第1回復興！見附 桜まつり2024」の情報収集をし、健康増進センターとささえ愛センターに情報提供をした。

#### 日置地区

仮設住宅支援事前調査：避難所となっている日置公民館を訪問し、避難所責任者より地域住民の状況や今後のコミュニティ課題などについて情報収集をした。4月には地区主催で復興推進会議の開催が予定され、地域住民への情報発信も積極的に行っている。

## 7. 支援活動を通しての所感と課題

### 【避難所支援】

大谷地区は、市内でも上下水道の復旧が遅く、仮設住宅建設も他の地域から遅れが生じている。2次避難生活も継続されたことで、地域コミュニティの再生も後ろ倒しとなる可能性がある。今現在、地域に暮らす住民のつながりの維持が大切であり、避難所での弁当配布の継続はその一助となっていると考える。中長期的には、地域イベントの開催などにより、地域住民の交流機会を作るなど、先行する地域を参考としながら、地域住民主体のつながりの維持活動を期待したい。

### 【仮設住宅支援】

震災後3ヶ月が経過し、初回巡回訪問で要フォロー者であった住民以外にも、健康状態が低下している事例があった。災害関連死を防ぐためには、要フォロー者以外をどのようにフォローしていくのが課題であり、早急に検討すべき事項である。

参加者の会話や表情から、集会所でのお茶会は、地域住民が集まる交流の機会として有効であると考えている。現在、公民館などの地域コミュニティ活動の中心となる場所が、地震による被災や避難所となり使用できない状況であるが、集会場はその代わりとなることが期待できると考える。また、仮設住宅敷地内の追加工事で、騒音などによるストレスの増加も予想され、お茶会での交流や体操により、ストレスが軽減されることを期待したい。

### 参考：現地の様子



正院町第1団地の居住者表示準備



仮設住宅初回巡回訪問